

北原メソッドの優しさと凄さ

「北原メソッド」とは長勝彦先生（元両国中学校教諭、元武蔵野大学客員教授、現在財団法人日本英語検定協会英語教育センター常任審議委員）に長年にわたり師事してきた北原先生が、長先生のベーシックな指導法の上に、自ら開発した理論と実践をデータで裏付けた指導法です。

このメソッドは、北原先生が現在勤務する東京都港区立赤坂中学校、前任校の東京都狛江市立狛江第一中学校の同僚教師、全国の北研会員日々の授業の中で実践されている方式です。

「北原メソッド」の大きな柱は4つあります。1つは徹底した発音指導、2つ目は1年生からの大量の音読指導、3つ目は豊富な語彙指導、そして4つ目が「使って覚える」パフォーマンス指導です。

北原メソッドの特徴

- 1 家庭学習（自学）と授業の連動
- 2 量の確保（4技能と語彙、発音）
- 3 赤ちゃんが言葉を覚える過程を大事にする（脳科学理論に立脚）
 - ・ 発音の重視（英語脳の構築）
 - ・ 和訳の排除（英語脳の構築）
 - ・ 「テキトー」に「何回も」（ストレスを与えない、飽きない繰り返し）
- 4 豊富で丁寧な語彙指導
単語単体でなく **collocation** を重視
- 5 音読の徹底
1年生は最終的には各ページを50回音読する
2年生は暗写まで

北研（英語基本指導技術研究会）—— 北研 HP の設立趣意書から（要約）

特に東京都においては教員の年齢構成のアンバランスもあり、ベテラン教師から若手教師への指導技術の継承が滞っています。私たちが若手だった頃は、長勝彦先生をはじめ、お手本となる素晴らしい指導技術・指導理念をお持ちの先生方がいらっしやって、授業を見せていただいたり、直接にご指導をうけることが出来ました。また同年代の教師も多く、お互いの授業を見せ合ったり共に授業研究をすることもできまし

た。さらに1988年から旧文部省が始めた海外研修で学んだ教授法・教材等を共有することによって、私たちの世代ならではの新しい指導法・教材が編み出されました。

しかし昨今は校務が忙しく、なかなか外へ出て他の先生方の実践から学ぶことができなくなりました。さらに生徒数の減少に伴って、教師の採用が少なかった年が続き、若手の先生方が悩みを打ち明けたり、お互いに磨きあうことも少なくなっています。それは若手の先生方に限りません。絶対評価、少人数指導、習熟度別授業、小学校英語の拡大など次々と新しい課題が現われる今日の英語教育界において、研修は欠かすことはできません。官民の研修会も数多く開催されていますが、私たちが長先生から「長式指導法」を学んだような、しっかりと背骨が通っている体系的な研修を受けることは難しい状況にあります。

そこで長先生にずっと師事してきた者の一人として、現状を憂え、将来の英語教育のために北研（英語基本指導技術研究会）を始めることにしました。

留年よりも指導力の向上を

大釜茂璋

(NPO法人 教育情報プロジェクト代表)

先日の「朝日新聞」の声欄に、「留年よりも指導力の向上を」とする投書が載っていました。児童生徒の学力が以前に比べて低下し、その解決策として義務教育段階での留年制度の是非が議論されているといます。しかしそれは如何なものかとする元小学校長の意見です。「義務教育には能力の伸長と人格形成が求められる。留年した児童・生徒が劣等感を持ち、将来に悪影響を与えるのではないかとする危惧からである」と。

それよりも、「子どもたちに学習意欲を起こさせ、子どもなりに努力ができるよう導くために、教員の指導力を向上させることのほうが先だ」と主張しています。

まさにその通り。最近の教師は勉強をしなくなったという人もいます。しかしフォーラムや研修会を主催する立場からいうと、決してそのようなことはありません。e-prosフォーラムには、自己啓発に燃える若手教師たちが、遠方からの参加者は東京に自費で泊り込みで参加してきます。要は、やる気があるかによって決まることです。フォーラムに参加してくる教師は、どういう児童・生徒に育て上げるかという教師としての理想像をしっかり持っていることに気づきます。そのために自分は何を学び、どういう価値観を持つ教師になるかを弁えているのです。積極的に人と交わり、積極的に学ぶことが大事です。

研修会参加者受付中！ **お願い⇒ ハイヒールの方は上履きをご持参ください。**

新学習指導要領の授業と北原メソッド **新教科書対応英語指導法研修会**

4月期 e-pros 英語指導法研修会

楽しく活性化された授業で学習意欲をつける！

協力・協賛：エデュケーショナル ネットワーク／イー・スタッフ／日本教育大学院大学／教育新聞社／森上教育研究所

日時 4月29日(昭和の日) 午前10時～午後4時(終了時間予定) 受付開始9時40分

会場 JR上野駅入谷口1分 岩倉高等学校 東館3階視聴覚教室

JR上野駅入谷口を出ると右手に横断歩道、そこを渡ると正門です。東京メトロ上野駅から徒歩3分、京成電鉄京成上野駅から徒歩6分。いずれからも至便の場所にあります。

会費 4,000円 (2名以上での参加者とe-pros会員は3,500円に割引。学生は無料)

申込み方法 下の申込み用紙にご記入の上、そのまま03(5213)2029へFaxするか、

- 1 住所・氏名、②勤務先(学生は大学名・学年)、③参加人数を記入して、info@e-pros.jpまで送信してください。

岩倉高校のご好意で、広い視聴覚教室を借用しました。当日受付も行います。

【講師と講座名】

10:00～12:00 市田 州英先生 (東邦大学附属中学校・高等学校教諭)

「すべての活動をアウトプットにつなげる」

【講座レジュメ】私は常々生徒がアウトプット、つまり話したり、書いたりして自己表現をする楽しさを味わってもらうことをゴールと位置付けて授業を行います。生徒にアウトプットできる力をつけさせるためには、十分なインプット・インテイクが欠かせないものです。そのため普段の授業における活動や、家庭学習としてやるものの中にインプットやインテイクの要素が含まれているかを常に留意し、最終的には生徒のアウトプットにつなげなくてはならないと考えています。

13:00～15:40 北原 延晃先生 (東京都港区立赤坂中学校教諭)

「最新刊『授業の幹をつくる本 テスト編』から

【講座レジュメ】第1章「北原メソッドの最新成績」、第2章「『評価』(総論・各論)を使い、テストを含む評価全般。本校生徒の最新映像も紹介します。ゴールを見て今年度の計画を立てましょう。

4月29日開催 [e-pros 英語指導法研修会申込書](#) Fax 番号 03-5213-2029

氏名	e-アドレス :	@
住所〒	—	
電話	()	(参加者数
名)		
勤務先		
学生は大学名(学部、学科、学年)		